

地域包括ケアネットワーク No.64

笠岡市での地域包括ケアシステムの構築について

笠岡医師会理事 谷口 正人

笠岡市では、行政を中心として全世代・全対象型の地域包括支援体制を構築することにより誰もが安心して、住み慣れた地域での生活を継続できることを目指しています。そのために、1. 健康づくり・介護予防、2. 医療と介護の連携、3. 福祉（児童・障害・介護）、4. 生活支援の4つの領域で目標を立て、それを実現するために様々な施策を立案し実行しています。取り組み目標年度を2025年とし、現状分析では、課題として1. 高齢者を支える人口の減少、2. 疾病別医療費で1位を占める循環器疾患の予防、3. 75歳以上の疾病別医療費で2位を占める骨・関節疾患の予防、4. 医療費における慢性の呼吸器疾患・循環器疾患の増加が推計予測されること、5. 介護が必要になった主な原因である認知症の予防、6. 笠岡市では岡山県の中でも介護サービスの内、施設・居住型サービスの利用が多く介護費用の増加が予測されていることがあげられ、取り組み目標として介護認定率の平成28年度水準を維持させることを設定しました。

具体的には、平成30年度から、日常生活圏域である5ブロックでの小地域ケア会議、市全域での地域づくり連携会議、医療・介護の連携会議で課題発見・ネットワーク構築を行い、地域づくり・資源開発・政策形成を笠岡市地域ケア会議と各種審議会・市役所との連携で行っています。疾病予防、重症化予防、介護予防等の予防に重点を置き、①医療・介護職のマンパワー確保対策として、ケアキャビネット活用の検討、職種間連携強化・資質向上の研修会の実施、在宅療養パンフレットの作成と市民への配布、かさおか就職ガイド（医療職・介護職向け）の作成と高校及び大学への広報、介護ロボットの活用事業所の運営支援、②健康寿命延伸対策として、健康づくり活動企業推進事業、糖尿病重症化予防の実施、健康ポイント事業の実施、生活支援サービスの構築、③高齢者いきいき対策として、認知症アセスメントシート（DASK-21）を活用した金融機関・郵便局・薬局・岡山コープ等の地域の見守り機関による認知症の早期発見及び対応、MCIを対象とした認知症予防のための脳の健康教室（いきいきサロン・いきいき百歳体操の場での簡単な脳トレやMCI及び軽度認知症高齢者を対象にした通所介護サービス事業所での公文書の脳の学習療法の実施）、介護支援ボランティア活動に対する介護ポイント事業等を実施しています。

令和元年度の新たな取り組みとしては、退院退所後の運動機能維持による在宅生活継続を目的とした短期（6カ月以内）リハビリである通所型サービスCの実施、利用者の在宅維持に向けて積極的な取り組み（時間延長を含む）を行っている通所サービス事業所に対するインセンティブ事業、認知症の人や家族への相談支援を認知症当事者や専門職から定期的に受けられる場としての「おれんじドア」の開催回数を月1回に増加、認知症本人や家族の通いの場としての認知症カフェを4カ所からもう3～4カ所の追加設置を目指した補助金の創設、高齢者・被保護者・引きこもり等の実態把握、面的整備型の地域生活支援拠点の整備等を予定しています。

笠岡医師会としても様々な場面で協力をしており、笠岡市独自の取り組みもあり、これからの施策の成果が期待されます。